

地 域 再 生 計 画

1 計画の名称

「日本一のナス産地」安芸市の食と体験をフル活用した地域づくり計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

安芸市

3 地域再生計画の区域

安芸市の全域

4 地域再生計画の目標

4-1 地域の概要

安芸市は、高知県東部にあって、南は土佐湾に面し、北は四国山地を背にし、徳島県と接している。総面積は317.34㎢で、そのうち約89%を占める森林地帯を源流域とした安芸川・伊尾木川の2本の河川が市内中央部を南流し、下流に広がる肥沃な安芸平野が市街地を形成している。

また、気候が温暖で、日照時間が全国の市区の中で第1位と長く、年間平均気温も第29位であるなど、恵まれた気候風土からもたらされる多彩な農畜産物や海産物を有している。

本市は、温暖な気候のもとビニールハウスを用いた施設園芸が盛んで、天敵昆虫などを利用した環境保全型農業のトップランナーでもある。作物については、収穫量全体の73%を占めるナスが主体で、全国一の出荷量を誇っている。中山間地域ではユズの生産が盛んで、県内第一位の収穫量を誇っており、ナスと並んで本市の基幹作物となっている。また、森林面積は28,131haで、市域の約89%を占めている。

水産業では、シラスを捕獲するバッチ網漁と一本釣りが主体となっている。特にシラスの水揚げは県内有数で、平成18年には328tで県内第1位、平成19年及び20年では県内第2位となっている。

商業統計によると、多少の増減はあるものの、卸売業、小売業ともに商品販売額・商店数が年々減少傾向にある。また、中心商店街での空き店舗が増加するなど、空洞化が進んでいる。

平成20年の工業統計によると、食品加工を含む製造事業所数は、県内11市の中で2番目に少ない61で、従業者数は405人と11市で最も少なくなっている。また、1事業所あたりの平均従業者数は6.64人であり、規模が小さい事業所が主体となっている。更に、製造品出荷額は県内11市の中で2番目に低く、約82億円となっている。

観光資源としては、藩政期の面影を伝える武家屋敷が残る土居廓中を始め、登録有形文化財の野良時計や三菱グループ創始者・岩崎弥太郎生家がある。

童謡・書道・陶芸のまちとしても知られ、「雀の学校」、「春よ来い」などの童謡作曲で知られる弘田龍太郎の出身地であることから、市内 10 カ所に曲碑が設置されているほか、公設としては全国初の書道美術館がある。また、内原野焼きやトンボ玉作りなどを体験できる内原野陶芸館・ガラス工房は、本市における体験観光の拠点施設となっている。また、昭和 40 年から続く阪神タイガースのキャンプ地にもなっており、スポーツを通じての集客にもつながっている。

平成 22 年には、NHKの大河ドラマ「龍馬伝」を契機に岩崎弥太郎の知名度が飛躍的に高まったことで、岩崎弥太郎生家には約 20 万人、「土佐・龍馬であい博」のサテライト会場には約 11 万人の観光客が訪れた。しかしながら、NHK大河ドラマ終了後の観光客数減少は、全国他県でも多くみられ、「龍馬伝」においても反動減は避けられないものと考えられる。

交通面では、平成 14 年に土佐くろしお鉄道「ごめん・なはり線」が開業しており、通勤・通学の利便性は大きく向上した。国、県などの官公署の出先機関も多く所在するなど、県東部地域の中心都市として機能している。

高知県東部の中心地として発展してきた本市であるが、昭和 30 年代の高度経済成長期を境に人口減少が始まり、昭和 35 年国勢調査の 30,370 人に対し、平成 17 年国勢調査では 20,348 人と、45 年間でおよそ 33%減少しており、国立社会保障・人口問題研究所が平成 20 年 12 月に推計したデータでは、平成 27 年には 17,977 人まで減少すると推計されている。また、本市の高齢化率は 29.1%であり、県全体より 3.2 ポイント、全国より 9.0 ポイント上回っているが、今後、高齢化率上昇のスピードが速まっていき、県や国との乖離が広がっていくことが見込まれる。

4-2 雇用面における課題

本市は、気候が温暖で、日照時間が長いなど、気候風土に恵まれた土地柄である。

この気候風土を生かし、本市の基幹産業である農業の振興を図ることが必要であるが、燃料や資材価格の高騰、野菜価格の低迷など、農業を取り巻く情勢は厳しく、後継者不足が深刻化しており、それに伴い遊休農地が増加している。

林業分野では、木材価格が一定向上してはいるものの、搬出などに係る費用がかさみ、採算が取りにくい状況にあるため、担い手を確保していくためには、林内路網の整備などが求められている。

農業を中心とした 1 次産業の比率が高く、生鮮野菜や鮮魚の販売により経営を成り立たせているが、雇用の確保や地域経済の発展の観点から考えると、付加価値を有する 2 次産業、3 次産業への拡大、また、既存の各産業間で連携する仕組み作りが大きな課題となっている。

観光分野においては、NHK大河ドラマ「龍馬伝」終了後の観光客数減は避けられないものと考えられるため、観光客の集客力向上に向けて如何に取り組むかが課題となっている。

また、卸売業、小売業では、商品販売額・商店数がともに減少傾向にあり、市内の食品加工を含む製造業者は、規模が小さい事業者が大半で、製造品出荷額も低くなっている。

- 農林水産業における担い手が不足している。
- 農産物や海産物などを活用した加工品開発を推進していく人材が不足している。
- 顧客ニーズを踏まえて、地域の特産品のブランド化を図り、有利販売を進めていける人材が不足している。
- 特色ある歴史や文化を有しているものの、十分な経済効果を生み出せていない。
- 雇用の受け皿となる企業自体が少なく、新たに起業する人材も少ない。

このため、地域雇用創造推進事業を導入し、雇用につながる人材の育成及び新たな雇用の創出を行うことで、地域再生を図る。

地域再生の取組を通して、以下の目標を達成する

- ・雇用拡大メニュー利用企業数 35社
- ・人材育成メニュー利用者数 429人
- ・就職促進メニュー利用者数 20人
- ・新規雇用数 105人

5 目標を達成するために行う事業

5-1 全体の概要

第1次産業の担い手や作業支援従事者の育成を推進するとともに、農家の法人化や商店街で起業する人材を育成する。また、豊かな食・歴史・文化を生かした交流人口の拡大に資する取り組みを行い、地域資源を最大限に活用した加工品開発や体験観光の充実等により雇用を創造する。加えて、すべての業種で必要とされる接遇やパソコンなどの能力開発を広く実施することや、企業誘致に係る取り組みなどと併せて地域雇用の拡大を図る。

5-2 法第5章の特別の措置を適用して行う事業 該当なし

5-3 その他の事業

5-3-1 その他の事業（基本方針に基づく支援措置）

（1）支援措置の番号及び名称

【B0902】地域雇用創造推進事業

（2）当該支援措置を受けようとする者

安芸市雇用創造推進協議会

構成：安芸市、土佐あき農業協同組合、高知東部森林組合、安芸漁業協同組合、社団法人安芸市観光協会、安芸商工会議所

（3）当該支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容

I 雇用拡大メニュー

① 雇用機会拡大セミナー

農業経営者、企業経営者に対して、商品の開発、販路拡大、労務管理などのノウハウを研修する

II 人材育成メニュー

① 新規就農者育成講座

先進的な知識や技術を持ち、経営感覚に優れた農業者を育てるために、新規就農希望者を対象に、ナス、ユズ等の農作物の栽培に必要な知識や栽培技術を身につけるための研修、環境保全型農業に関する研修、経営管理に関する研修等を行う。

② アグリサポーター育成講座

農業者の高齢化、後継者不足が懸念されているなかで、農業の繁忙期等に農作業をサポートする人材を育てるため、農作業の基礎的な知識、技術等を身につけるための研修を行う。

③ 林業新規就業者育成講座

林業就業者を確保するため、林業に関する基礎知識の研修、作業路敷設やチェーンソーなどの作業機械操作についての研修を行う。

④ 一次産品加工開発講座

一次産品に付加価値を付けて販売していけるように、本市の特産品のなかから有望な加工品の候補となる産品を選別する能力を持ち、それを加工利用し、事業として発展させうる人材を育成する。

⑤ 販売戦略・企画力養成講座

顧客をよく知って理解し、ニーズに合った売れる製品を作りだせるとともに、相手先企業等との交渉能力など、対人による販売営業能力を持つ人材、及び、インターネットを活用した販売ができる人材を育成する。

⑥ 接客・接遇マナー講座

お客様や相手先企業に礼節を持って丁寧に対応できる人材を育成するため、ビジネスにおける接客・接遇マナーに関する研修を行う。

また、すべての業種で必要な事業所内や関係者との対人関係の円滑化に資する研修を行う。

⑦ パソコン講座

ワードやエクセルのソフトを利用して、一定レベルの文書作成や印刷ができる程度のパソコン知識と技術を具えた人材を育成するための研修を行う。

⑧ 観光ガイド・インストラクター育成講座

本市には、岩崎弥太郎の生家や野良時計等の観光スポットがあり、これらを観光客に分りやすく丁寧に説明できる人材を育成する。また、現在体験観光による修学旅行誘致を進めており、体験観光のインストラクターを養成するための研修を行う。

⑨ 起業・法人化支援講座

新たに起業するためには一定の知識やノウハウが必要とされるため、これら知識等を習得するための研修を行い、新たに起業する人材を育成する。また、本市の農業は、家族経営が大半であるが、後継者不足等が懸念されている。そこで、雇用による農業経営を促進させるため、法人化の手順等に関する研修を行う。

Ⅲ 就職促進メニュー

① インターネット情報発信及びパンフレット作成事業

地域雇用創造推進事業の各種研修情報や、各省庁・県・市等の産業等に関する事業等の情報について、本協議会で開設するホームページにおいて情報発信し、求職者への情報提供を図るとともに、チラシやポスター等により研修や事業内容の周知を図ることで、事業の効果を高める。

② U J I ターン募集事業

U J I ターンフェアへ参加し、就職相談を行うことで、U J I ターン就労希望者への情報提供や就業相談の場が提供でき、本市への就業者獲得につながる。

5-3-2 その他の事業（支援措置によらない独自の取組など）

(1) 安芸市新規就農者研修支援事業

平成 22 年度からの事業で、新規就農者の確保・育成を図るため、本市在住の農業者のもとで農業研修を行う研修生に対して最大で 15 万円／月、研修生を受入れて研修指導を行う研修生受入農家等に最大で 5

万円／月の補助金を交付する。研修期間は、6ヵ月以上2年以内。

(2) 安芸市農業大学校学費補助金交付事業

平成22年度からの事業で、農業の基礎的な知識や技術、新たな技術を持ち、経営感覚に優れた新規就農者の確保・育成を図るため、本市在住の方が、農業大学で修学し、卒業後に本市で就農する場合、学費の一部を補助する。

(3) 安芸市環境保全型農業推進事業

施設園芸農業を行っている農業者5人以上で組織する団体に対して、化学合成農薬の低減につながる資材の導入に要する経費の補助を行う。

(4) 無料職業紹介所JA土佐あきアグリサポート事業

農繁期における農作業支援を円滑に行えるよう、人材が不足している農業者のもとに農作業ヘルパーを紹介し、農作業の効率化を図っている。

(5) 協働の森づくり事業

環境先進企業と地域とが協働して「森林の再生」と「交流の促進」を柱とした取り組みを行うことで、手入れの行き届かない状況となっている森林の再生を進める。

(6) AMA（阿南市・室戸市・安芸市）地域連携協定

四国東南地域の阿南市、室戸市、安芸市の豊かな自然、古い歴史及び文化を大切に保護し、広域的に散在する地域資源の活用や人々の交流を通じて、広域観光の戦略的な取り組みを進めることにより、県境を越えた四国東南地域の発展に寄与することを目的として平成20年に連携協定を締結し、観光振興、道路ネットワークの整備促進等に取り組んでいる。

(7) 「はばたけ弥太郎・龍馬伝」安芸市推進委員会

NHK大河ドラマ「龍馬伝」を契機に、本市の豊かな自然・歴史・文化を全国に情報発信することにより、観光客の誘致並びに地場産業の振興に寄与することを目的とした取り組みを行う。

(8) 安芸をこじゃんと元気にする事業

安芸市の特色を活かして地場産業の振興を図るため、土産品の開発やイベント開催などへの支援を実施。

(9) 安芸市大型店舗への企業誘致促進

本市の産業振興のうえで重要と認められる大型店舗への企業誘致を促進するため、条例で規定する条件を満たした事業所に対して、最大5年間、固定資産税の課税を免除する。

(10) 商店街新規開業支援

商店街の活性化を図るため、平成23年度からの新規事業として、空き店舗で新たに開業した場合の改修費及び家賃に対する補助を導入す

定。

(11) 安芸「釜あげちりめん井」楽会

観光客の誘致、リピーターの確保を推進し、地場産業の振興、市民所得の向上を図ることを目的とし、平成 22 年 11 月に民間が主導して楽会を設置した。安芸沖で豊富に獲れるシラスを始めとする地域食材の良さを PR していく。

(12) 定住促進事業

本市への移住促進を図るため、平成 16 年度から住宅団地を整備し、第 1 期、第 2 期と分譲を開始してきたが、平成 22 年度に完売となった。

(13) 安芸市産業振興会議

産業振興を図るため、平成 22 年度に官民一体となって検討を行う安芸市産業振興会議を設置し、雇用創出や所得向上を目指し、産業振興推進プランを策定した。このプランに基づき、産業振興に係る各種事業を行っていく。

6 計画期間

平成 23 年度～平成 25 年度

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

本計画の目標達成状況については、安芸市雇用創造推進協議会において事業の利用者数や新規雇用数等について数値目標と比較し評価する。この結果については、開設予定の協議会ホームページ上で公開し、広く市民に対し情報公開する。

8 地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項

該当無し。